

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	168人	社会	168人	数学	169人
	理科	168人	英語	169人		

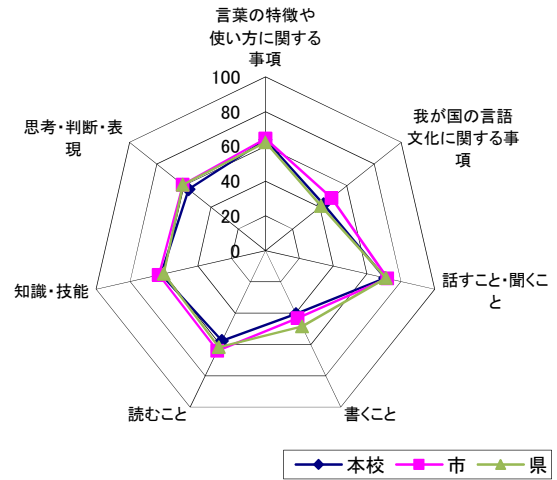
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	63.8	64.5	62.3
	我が国の言語文化に関する事項	42.9	48.7	41.1
	話すこと・聞くこと	70.7	72.1	71.2
	書くこと	40.5	43.1	48.5
	読むこと	57.7	63.9	61.8
観点	知識・技能	61.7	62.9	60.1
	思考・判断・表現	56.6	60.8	60.8



★指導の工夫と改善

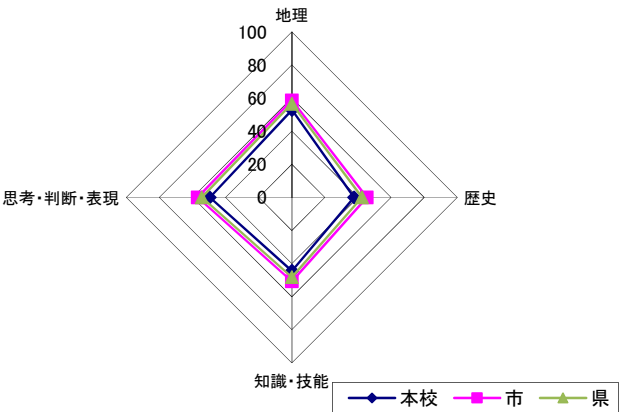
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均より0.7ポイント下回っており、県の平均より1.5ポイント上回っている。 ○中学までに学習した漢字を正しく読む・書くことはできている。 ●文節の関係に関しては理解に課題がある。	・今後も漢字テストなどを繰り返して、漢字の理解のさらなる定着を図る。 ・日常的に文法に関した指導を繰り返して、さらに定着を図る。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均を5.8ポイント下回っており、県の平均より1.8ポイント上回った。 ○短歌に用いられている表現技法に関しては市の平均を5.8ポイント上回っており、しっかりと理解できている。 ●歴史的仮名遣いに関しては理解に課題がある。	・歴史的仮名遣いに関して古典の学習時のみならず、日常的に小テストやドリルなどを繰り返して定着を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を1.4ポイント、県の平均より0.5ポイント下回った。 ○話し合いの工夫をとらえる問題は市の平均とほぼ同じ正答率となり、よく理解できていた。 ●話し合いのまとめを書く問題では理解やまとめ方に課題がある。	・聞いた話を理解しまとめる活動を授業の中に取り入れ、積み重ねていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均を2.6ポイント、県の平均より8ポイント下回った。 ●読み取った内容を要約して明確にして書く問題では4.7ポイント下回っている。また、2段落構成で文章を書く問題では2.2ポイント下回っている。指定された長さで文章を書く問題では3.8ポイント下回っていた。	・資料の読み取り・要約に関して継続的な指導をしていく。また、授業の活動の中に書く作業を多く取り入れ、様々な条件の下で書く訓練をしていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均を6.2ポイント、県の平均より4.1ポイント下回った。 ●場面の展開や登場人物の心情の変化について、描写を基に捉えることができるかどうか、登場人物の心情の変化について、場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈することができるかどうかについての問題では市及び県の平均を下回った。	・特に文学的文章について、多くの文章に触れ、文章の構成や展開について考える時間を増やしていく。場面の展開や登場人物の心情の変化については、「いつ、どこで、だれが、何をしたか」を文章中の情景や登場人物の言葉から考える方法などを伝えて読み取る力を身に付けさせる。

宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	52.8	58.7	56.6
	歴史	37.7	45.4	42.4
観点	知識・技能	44.4	50.7	48.2
	思考・判断・表現	49.5	56.9	54.4



★指導の工夫と改善

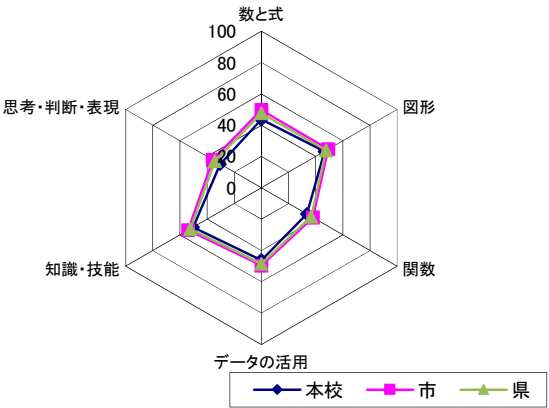
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>平均正答率は、市の平均より5.9ポイント、県の平均より3.8ポイント下回った。</p> <p>○世界と日本の地域構成や世界の諸地域について、おおむね理解できている。そのため、各州の重要な特徴について選択・記述したりする問題の正答率が高くなっており、時差についての仕組みを理解して正しく選択している生徒も多い。</p> <p>●地図や統計資料などから情報を読み取り答える問題に関しては、市より6.1ポイント、県より5.2ポイント下回っており、正答率も低く課題となっている。資料を読み取る技能が身に付いておらず、苦手と感じていると考えられる。</p>	<p>・グラフの読み取り方についての授業を丁寧におこなう。また、複数の資料を比較する学習や資料から読み取れることを説明する学習を重点的に行う。その際、説明する力を身に付けられるよう説明する手順や言葉の使い方などを段階的に指導していく。</p> <p>・既に学習した知識と関連させた授業展開に努め、多面的・多角的な理解を深めるよう指導を行う。</p>
歴史	<p>平均正答率は、市の平均より7.7ポイント、県の平均より4.7ポイント下回った。</p> <p>○古代の日本(旧石器時代から平安前期)についての分野はおおむね理解している生徒が多く、知識が定着していると考えられる。</p> <p>●歴史的事象について、その背景や与えた影響など流れにそった理解が不十分である。特に、出来事を時代順に並び替える問題では、市より9.8ポイント、県より8.9ポイント下回っており、正答率も低く課題となっている。知識を身に付けている生徒も出来事のつながりを意識して学習をしていないためと考えられる。</p>	<p>・ステップアップタイム(前時の振り返り)の時間に、前時の重要語句を振り返り、知識の定着を図り、前時と本時の授業のつながりをもたせ、学習が途切れないように工夫する。また、本時で学習する内容は何時代なのかを板書し、前後の出来事を繋げて授業を展開するように工夫をする。</p> <p>・問題量の確保が必要なので、地理と同様、AIDリルやワークなどを使って、様々な形式の問題に対応できるような日々の学習に取り組ませるようにする。</p>

宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	43.7	49.7	47.6
	図形	46.6	49.2	47.7
	関数	33.4	38.0	36.8
	データの活用	46.2	49.6	48.5
観点	知識・技能	50.3	54.0	52.5
	思考・判断・表現	30.4	35.8	34.1



★指導の工夫と改善

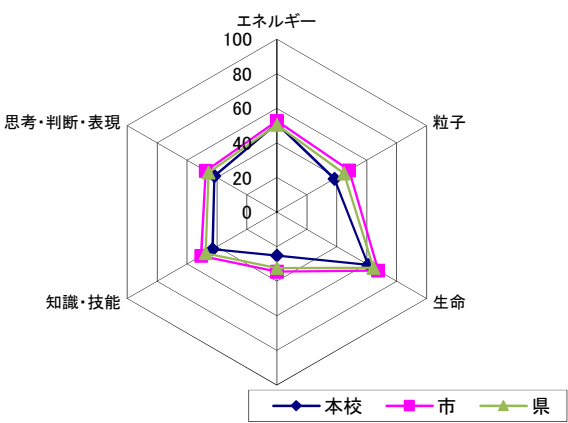
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は、市の平均より6.0ポイント、県の平均より3.9ポイント下回った。 ○四則の混じった計算や、1次方程式の計算についての問題は、県の平均を上回っており、よくできていた。 ●数量の関係や法則などを文字を用いた式で表す問題は正答率が11.8%であり、式を用いて表したり読み取ったりすることに課題が見られた。	・文字を用いた式は優れた表現方法であるので、その意味を読み取るとともに、その良さを感じ取り、式を積極的に活用できるようにしたい。文字を具体的な数に置きかえて、どんな式で表すことができるかを確認してから、文字を使うなど丁寧に指導していく。
図形	平均正答率は、市の平均より2.6ポイント、県の平均より1.1ポイント下回った。 ○回転、平行移動したときに重なる図形を選ぶ問題は、県の平均を上回っており、よくできていた。 ●おうぎ形の面積をもとに、円の面積を求める問題は無解答率が37.9%であり、円の一部としてのおうぎ形について、同一の円の面積がその中心角の大きさに比例することの理解に課題が見られた。	・面積や体積の公式をただ暗記するのではなく、公式の成り立ちや意味を理解し、活用できるように指導していく。
関数	平均正答率は、市の平均より4.6ポイント、県の平均より3.4ポイント下回った。 ○比例の式から値を求める問題は、正答率が62.1%であり、よくできていた。 ●与えられた考え方や条件をもとに、グラフの直線が途中で止まっている理由を説明する問題は無解答率が36.1%であり、具体的な事象を捉え考察し表現することに課題が見られた。	・具体的な事象を扱う際には、変数の変域に注意する必要がある。例えば、長さや面積の関係を抑えるとき、負の数の範囲で抑えることは現実的ではない。数学的に説明をする機会を増やし、具体的な事象において、変域を意識しながら事象を抑え考察し表現できるように指導していく。 ・各領域で速さの問題を扱う際、授業中に時間を設けて丁寧に復習し、定着できるように指導していく。
データの活用	平均正答率は、市の平均より3.4ポイント、県の平均より2.3ポイント下回った。 ○資料から度数分布表のデータを読み取り、累積度数を求める問題の正答率は64.5%であり、よくできていた。 ●データの傾向について、読み取ったことを基に自分の考えを理由とともに説明する問題は無解答率が42.0%であり、データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することに課題が見られた。	・計画的に様々な問題に取り組ませることで、ヒストグラムにおける最大値や、階級値などの用語の意味だけではなく、その使い方についての理解を深めさせる。また、その過程において、ヒストグラムや相対度数などを用いてデータの傾向を抑えることのよさを知り、データを整理して活用する際に生かせるように指導していく。

宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	51.2	52.7	50.5
	粒子	38.4	48.3	44.9
	生命	60.9	67.6	64.4
	地球	25.2	34.4	32.3
観点	知識・技能	43.0	50.7	47.6
	思考・判断・表現	41.7	47.6	45.6



★指導の工夫と改善

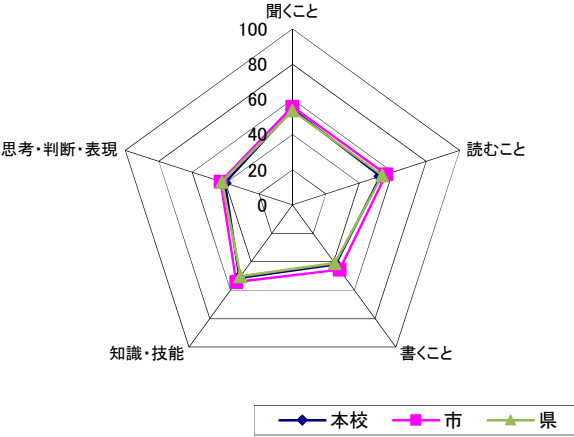
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、市の平均より1.5ポイント下回っており、県の平均より0.7ポイント上回っている。 ○凸レンズとそれがつくる像についての知識はおおむね身に付いていた。 ●虚像の作図については、非常に低い正答率であった。作図に対して苦手意識があるとみられる。	・光の分野では、身に付けた知識を活用する練習問題の課題を積極的に取り入れるなど授業展開を工夫する。 ・実験をしたうえで、結果をグラフや表にまとめて規則性を見つける時間を今まで以上に確保し、なぜその結果になったかを多角的に考えさせる時間を確保する。
粒子	平均正答率は、市の平均より9.9ポイント低く、県の平均より6.5ポイント下回っている。 ○二酸化炭素を発生させる方法と確かめる方法について、ほぼ理解できている。 ●食塩の水溶液のモデルでの表し方についての理解は正答率が低く、課題がある。非常に低い正答率であった。	・実験の結果をモデルで表すことで、肉眼では見ることのできないものをイメージできるようにする。 ・考察時に根拠を述べる習慣が身に付くように、話し合い活動やレポート作成を行う。
生命	平均正答率は、市の平均より6.7ポイント、県より3.5ポイント下回っている。 ○4つの領域の中で最も正答率が高く、基本的な知識が身に付いており、無解答率も低かった。 ●両生類と爬虫類について、身に付けた知識を活用して、分類を修正できるかどうかの問いでは、正答率が4割程度と低かった。また、イモリとヤモリの区別ができていなかった。	・県立博物館からの標本の貸し出しを利用して、実物を見たり、触ったりする時間を設け、思考の深化を図っていく。 ・植物、動物の分類の基準については用語を覚えるだけでなく、用語を用いて説明するなどの発展的な活動を取り入れる
地球	平均正答率は、市の平均より9.2ポイント、県より7.1ポイント下回った。 ●4つの領域の中で最も正答率が低かった。実験や観察が困難で、教科書の写真や標本に触れるなどにとどまるため、イメージがつかみにくいと考えられる。 ●火成岩のでき方について、時間的・空間的な視点で考え、文章で表現するところに課題が見られる。	・教科書に記載されている実験・観察だけでなく、適宜ICT機器を活用し多様な方法で興味関心を高める。 ・授業の中で、時間の流れを意識しながら火成岩のでき方について生徒が説明する時間を確保する。

宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	54.4	55.8	53.5
	読むこと	52.7	56.0	53.8
	書くこと	41.9	45.6	40.9
観点	知識・技能	51.3	54.3	50.2
	思考・判断・表現	40.4	42.9	42.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は、市より1.4ポイント下回ったが、県よりは0.9ポイント上回った。 ○クローズド質問や適切な絵を選ぶような選択形式の問題は正答率が高く、基本的な聞き取りや理解はできている。 ●疑問詞を使った問いに対しては正答率が低く、文の構造理解や文全体の意味の把握に課題がある。 ●単語で答えれば意味が伝わるような応答には対応できているものの、文として答える問題には弱さが見られ、英語の語順や文法の運用力が不十分である。	・疑問詞を使った質問への理解を深めるために、疑問詞の意味とそれに対応する答え方のパターンを繰り返し練習する。 ・教師と生徒、生徒同士がコミュニケーションをとる機会を多く設け、相手の話したことを聞き取るだけでなく、その内容に対して反応を示したり、さらに相手を理解するためにどういう質問をすることで円滑なコミュニケーションがとれるかを考えさせ実践していく。また、質問の意図を理解し適切に答える力を育てるために、質問に対して主語+動詞の形を意識させた文での応答を習慣付けていく。
読むこと	平均正答率は、市より3.3ポイント、県より1.1ポイント下回った。 ○短い対話文や簡単な英文は理解できている ●表やグラフを含む情報整理型の文章や、ある程度のまとまりをもつ英文においての理解や内容把握に課題が見られる。 ●読むことの領域全体の正答率が全体的に低く、文章全体の構造をとらえたり要点を整理したりする力が課題と考えられる。	・語彙力を高めるためにも定期的に単語テストを実施していく。 ・表やグラフなどの視覚的情報を含んだ英文の読み取り練習を意識的に取り入れる。また、まとまりのある英文を読むときには、いつどこで誰が何をしたか、なぜといった要点を意識して、読む練習を実施していく。 ・まとまりのある文章を読むときには、未知の単語があっても前後の文脈から意味を推測して読み続け、短い時間で概要や要点を把握できるよう速読の練習を取り入れていく。
書くこと	平均正答率は、市より3.7ポイント下回ったが、県より1.0ポイント上回った。 ○短い応答や定型文での英問英答など定型的なアウトプットには対応できている。 ●自分の考えを組み立てて伝える場面では語彙力が乏しく、文の構造の理解が課題である。 ●まとまりのある英文を書く問題に対する無解答率が33%と高く、書こうとする意欲やどう表現したらいいかわからないという自信の低さがあると考えられる。	・無回答の多さから、「間違っはけない」「自信がない」といった心理的な要因の可能性がある。まずは間違ってもいいから書いてみることを評価する指導に重点を置き、段階的な指導「語→文→段落」を通して成功体験を積みせる。 ・書き方の型「導入→理由→結論」を身に付けさせ、自分の考えとその理由を伝える力を育てていく。 ・現在取り組んでいるパフォーマンステストとの接続を意識し、伝えるだけでなく「話したことを書く」活動を計画的に取り入れていく。

宇都宮市立雀宮中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」という質問に対し、肯定割合は98.8%で、市平均よりも5.4ポイント、県平均よりも7.5ポイント高い。「学校の宿題は自分のためになっている」と回答した生徒も89.4%に上る。生徒たちが宿題を単なる義務ではなく、自身の成長に繋がるものとして捉えていることが伺える。今後も、宿題の目的や意義を丁寧に説明することで、生徒が高い学習意欲を維持できるよう働きかけていく。

○「授業の中で、目標が示されている」、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」、「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いている」の各質問に対する肯定的な回答は、いずれも県や市の平均を上回っている。特に、「授業の中で、目標が示されている」では99.4%が肯定的に回答しており、市平均を2.5ポイント上回っている。これは、本校が導入している「ステップアップタイム」の成果であると考えられ、授業の見直しを持ち、学習内容をしっかりと確認できている。この取り組みを今後も継続し、生徒がより主体的に学び、着実に身に付けることができるよう支援していく。

○「話し合う活動をよく行っている。」の肯定割合 95.3%。「話し合いに進んで参加している。」の肯定割合 87.0%。「話し合う活動を通じ、考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定割合 91.7%と高い。また、「自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定割合 47.9%で、県より4.1ポイント高い。これらから、授業において話し合い活動が多く設けられており、生徒が積極的に参加していることが伺える。また、言語活動の協働的な学びである話し合い活動が、「意欲の向上」「深い学び」に効果的に繋がっているとともに、「自己肯定感の育成」に大きく貢献している。今後も、話し合い活動を積極的に継続し、さらに充実させていくことで、生徒一人ひとりの学びをより一層深めていく。

●「家で、決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定割合は49.7%と市の割合より9.9ポイント低い。前述の、宿題をしている割合が高いにもかかわらず、自主的な学習の割合が低いことから、生徒たちは与えられた課題はきちんとこなすものの、受け身の学習習慣が定着しており、自ら学習内容を見つけ、深めていく主体的な学習への移行が課題である。まずは、各教科で何をどのように学習すればよいのか、具体的な方法をいくつか示すなどをしていく。

●家庭での学習時間が1時間より少ない生徒が「普段の日」では39.1%。市平均、県平均より共に4.1ポイント高く、「休みの日」では42%と市より8.3ポイント高い。一方、2時間以上の「普段のテレビや動画視聴」の割合が62.7%、「テレビやスマホでのゲーム時間」の割合が52.3%といずれも市の平均より高い。学習習慣の定着とメディアとの健全な付き合い方の見直しが重要なポイントとなる。目標設定のサポートや効果的な学習方法の提案を通じて、学習の質を高める支援を行い、自律的な学習習慣の確立を目指していく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮モデル「はっきり」「すっきり」を軸とした授業の実施 ・振り返り活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が、授業の最初と最後に自分の学びを振り返る時間を設定する。(ステップアップタイム) ・教師は、ステップアップタイムと宇都宮モデル「はっきり」、「じっくり」、「すっきり」を軸とした授業を行う。 	質問「授業の中で、目標が示されている」、「ノートに学習の目標を書いている」では95%以上の生徒が肯定的な解答をしている。また、質問「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」では、82%以上の生徒が肯定的な解答をしている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で理由や説明を答える問いに対し、無回答率が高い問いがあり、特に、思考・判断・表現に関する問題では、正答率が低いものが見られる。このことから、知識を活用し、自分の考えを文章や短文で表現することが課題であると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことを軸にした振り返り活動の実施。 ・「書くことキャンペーン」の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で思考力、判断力、表現力等の育成の場において、自分の考えを根拠を明確にして、文章で表現できるように、指導と評価の一体化に向けた充実を図る。 ・行事などの取組の目標と取組の様子などを段階的に文章で記入させ、文の組み立て方を身に付ける活動を行う。